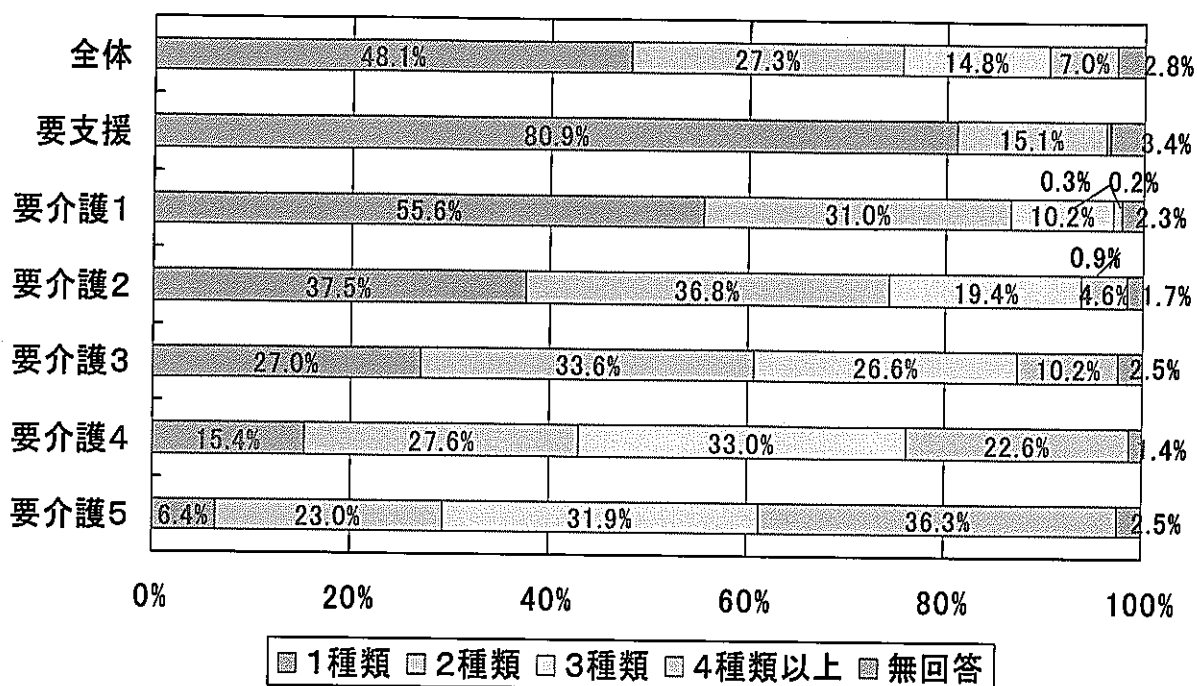
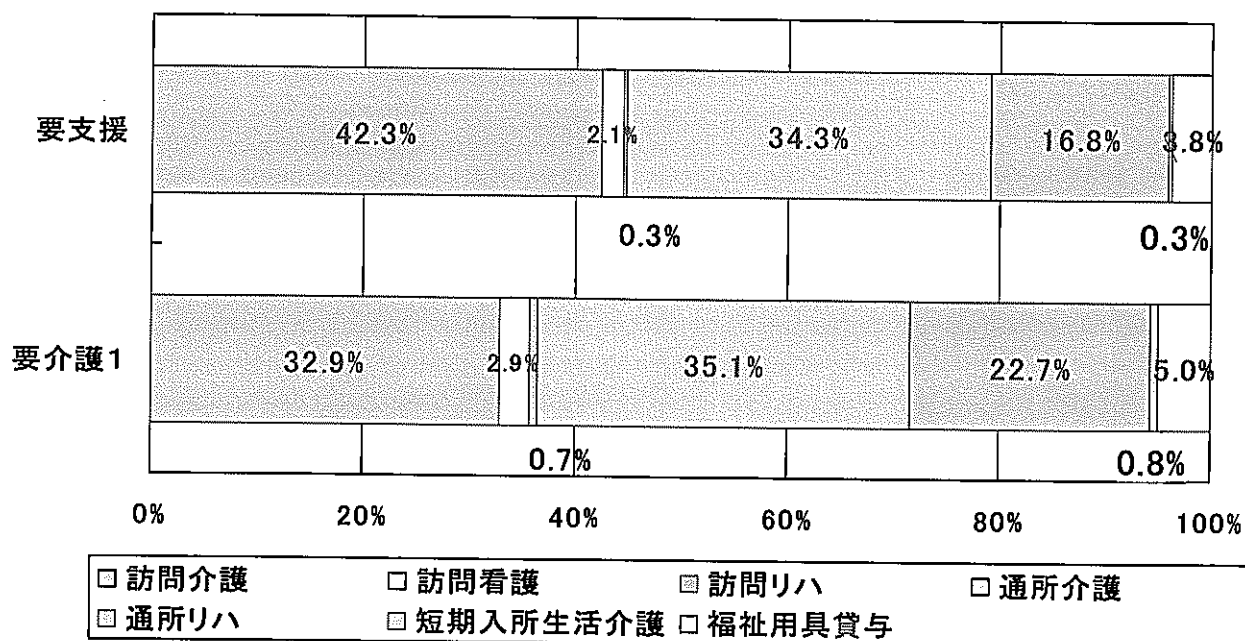


## 居宅サービスにおけるサービス利用 ケアプラン上のサービス種類数比較



※出典:「居宅介護支援事業所及び介護支援専門員業務の実態に関する調査」(平成15年株式会社三菱総合研究所;速報値)

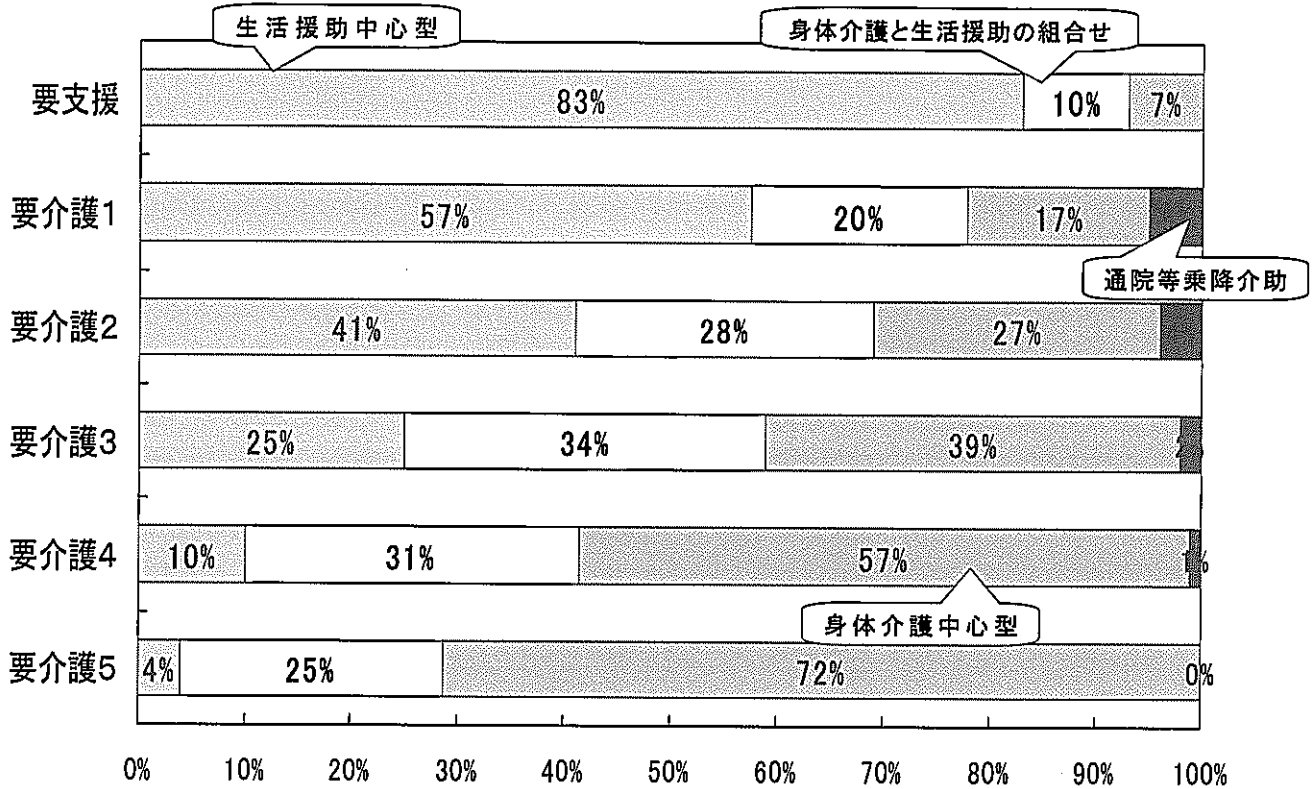
## 居宅サービスにおけるサービス利用 サービス構成比較 (件数ベース)



※出典:「居宅介護支援事業及び介護支援専門員業務の実態に関する調査」(平成13年長寿開発センター)

# 要介護度別にみた訪問介護のサービス内容

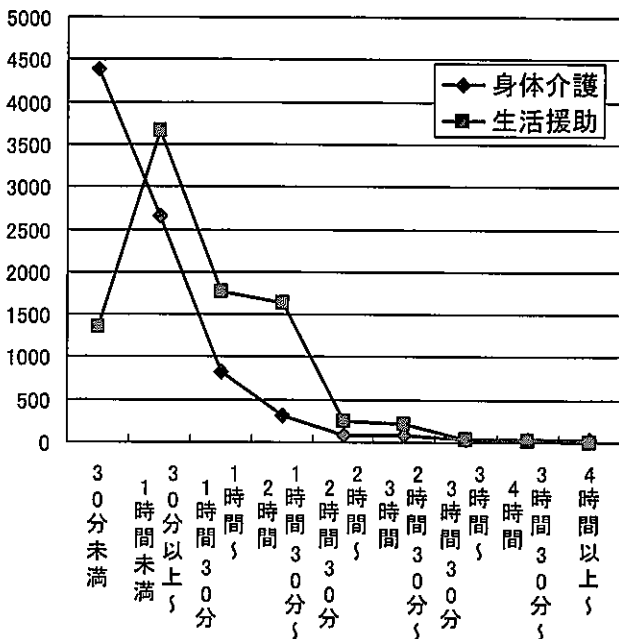
【要介護度別にみた訪問介護における請求回数内訳】



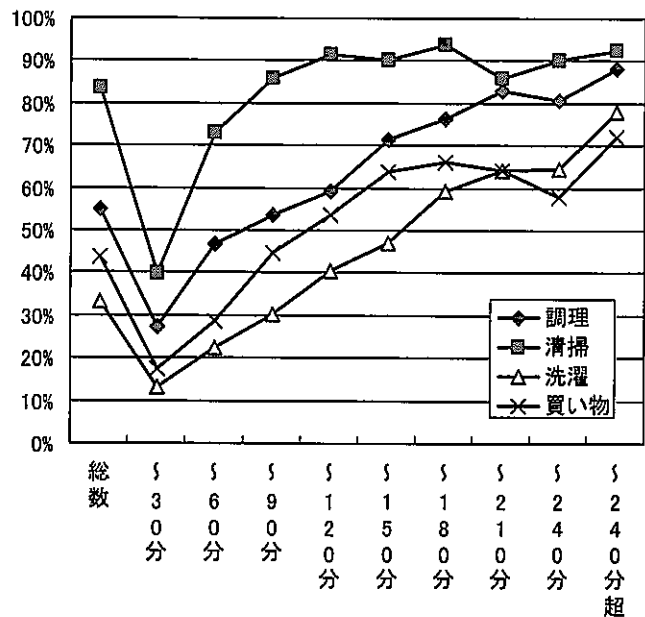
## 訪問介護（生活援助）のサービス内容

○訪問1回あたりの平均滞在時間

(回数) 訪問介護区分別時間別請求回数



○訪問介護（生活援助）の行為実施割合

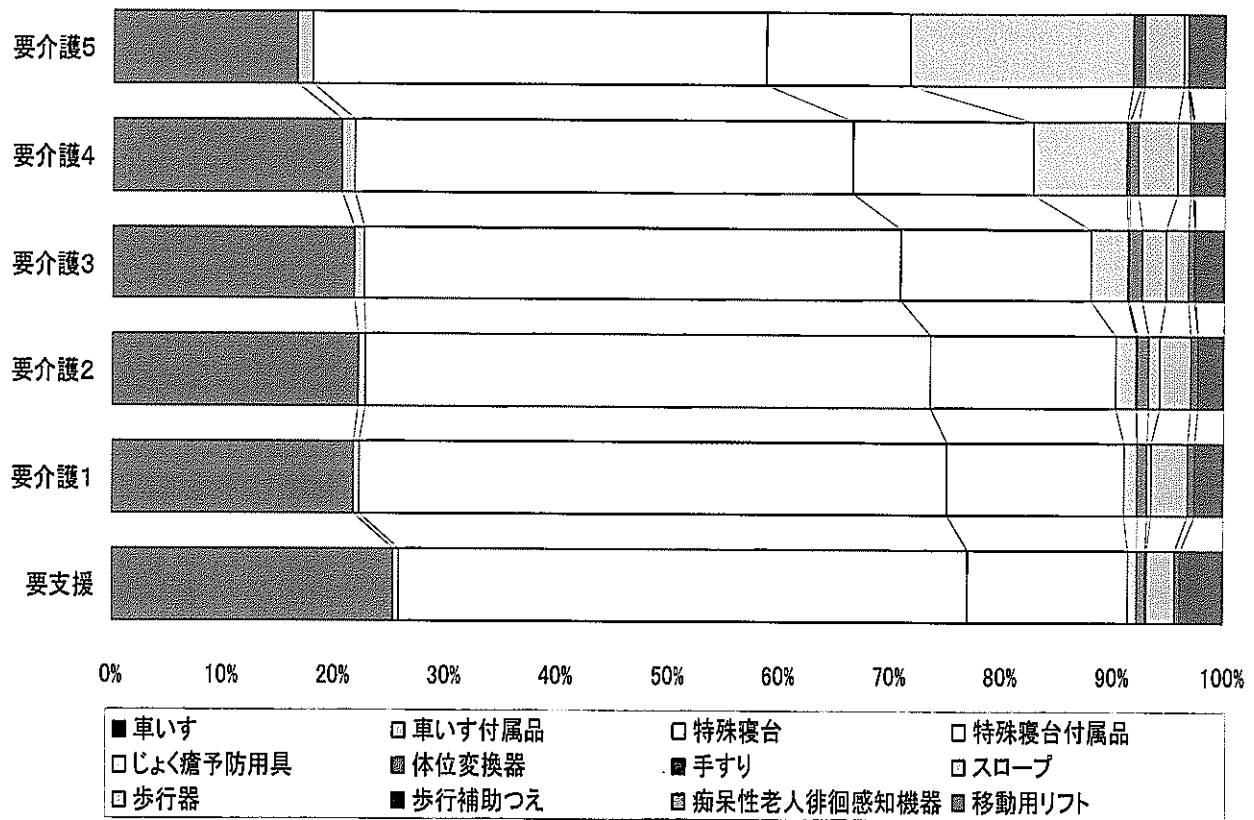


出典：介護給付費実態調査(平成15年10月審査分)

出典：介護サービス施設・事業所調査(平成13年10月)

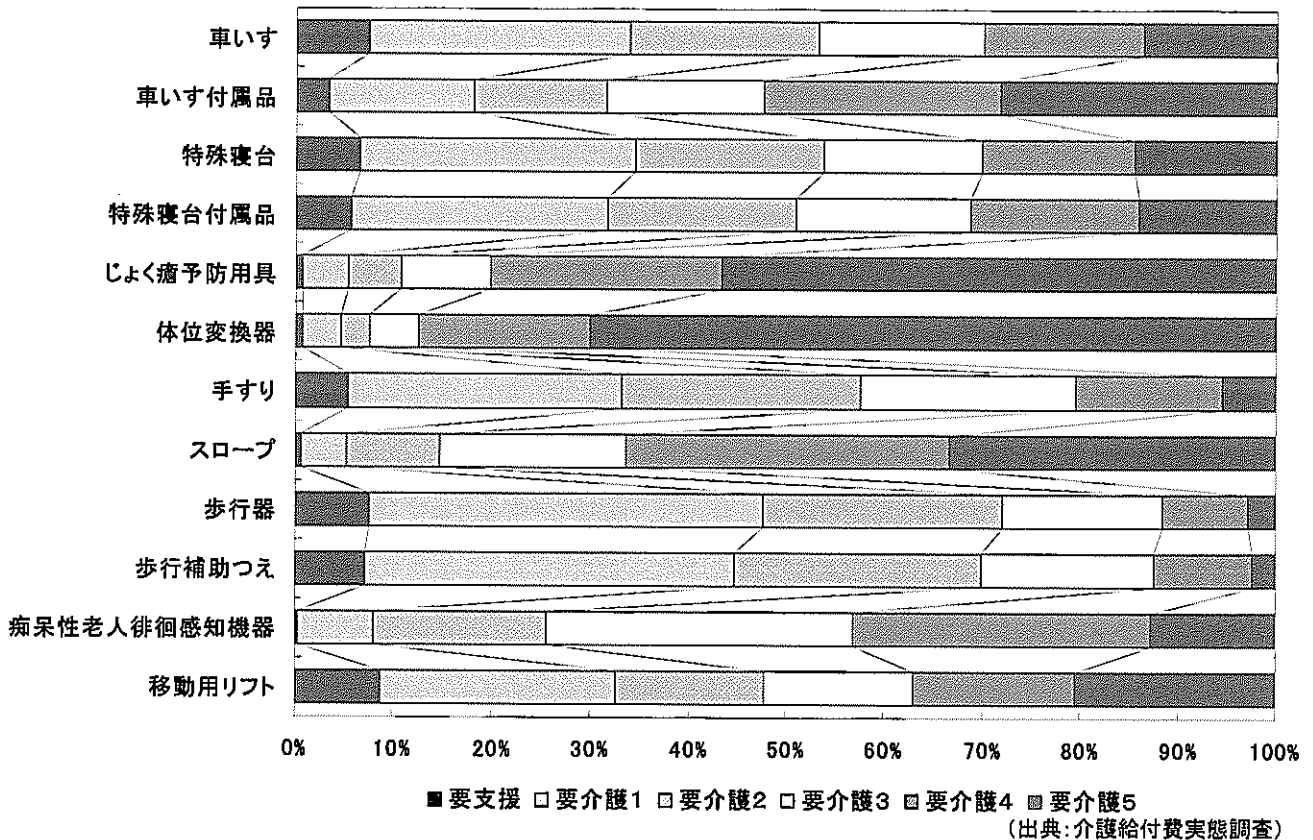
# 福祉用具貸与費の要介護度別利用種目割合

(平成15年10月サービス分)



# 福祉用具貸与費の種目別要介護度割合

(平成15年10月サービス分)



(出典:介護給付費実態調査)

### 3. 介護予防のエビデンスについて

「論壇 介護予防の基本的な考え方」  
東北大学大学院医学系研究科教授 辻 一郎 より抜粋

#### 介護予防のエビデンス①

「有効であるとする十分なエビデンスがあるもの」は、筋トシ、転倒・骨折予防、口腔ケアによる肺炎予防の3つで、世界的にも十分確立している。

#### 介護予防のエビデンス②

「効果は期待されるが、まだ十分なエビデンスが集積されていないもの」としては、高齢者総合機能評価（お達者検診・寝たきり予防健診）や、閉じこもり対策、うつ高齢者の治療が挙げられる。

#### 介護予防のエビデンス③

「介護予防どころか、要介護発生を促進しかねないもの」がいくつかある。その一つは、家事支援ホームヘルプ・サービスであり、利用者が依存的になるという問題がある。配食サービスも同様である。

また、デイサービスは、非常によい機会だが、実は座りきりになっている部分が非常に強い。

#### 介護予防のエビデンス④

「それ自体は介護予防を直接の目的としていないが副次的に十分な効果が期待されるもの」として、例えば、バリアフリーの環境整備、高齢者に対する公共交通料金の助成、地域活動・世代間交流がある。